

いよいよ伸びる秋が来た！・・・今、考えてほしいこと

3年の秋に伸びる！

いよいよ9月末、前期が終わるところまでできました。受験生にとってこの10月～12月という時期は、当たり前ですが非常に大切な時期です。浪人生と現役生の差が出るのはこの時期からです。現役生はようやく教科書を終え、入試問題に取り組むので、最初は難しいと思いますが、目に見えて伸びがわかります。そしてその伸びは受験のその日まで続きます。一番伸びるこの時期だからこそ、全力で勉強に取り組んでほしいと思います。たとえ模擬試験の結果が思わしくなくても、この時期に自分のその教科の弱点が分かってラッキーと捉え、徹底的に弱点を見直して今すぐに埋めてしましましょう。しんどいとか不安だとか思った時は、クラスの中を見回してください。同じようにこの時期に賭けて必死に勉強に取り組む仲間がいるはず。最後は自分一人が答案用紙と向かい合わなければなりません、それまでは団体戦です。一日一日を大切に過ごしましょう。

今、考えてほしいこと

1. 受験は人間的に成長できるチャンスである

「今、勉強しないでいつする？」ということばがありますが、確かに長い人生でこれだけ勉強することはきっと今しかありません。「受験勉強の知識は役に立たない」とか、「今の教育は暗記重視で歪んでいる」とかいわれたりもしますが、現実の制度がそうである以上、その試練に向かって取り組んだ人物か、逃げた人物かの差はとてつもなく大きいし、学校行事などで取り組んだ体験が将来に生きるのと同様に、「長時間の学習に取り組めたという自分そのもの」が財産となります。そういう財産をもった人物に入学してほしいためにこういう入試がされているといっても過言ではないのです。言い換えれば、受験は人間的に成長できるチャンスです。まだまだ長丁場ですが、頑張れるようになった君にエールを送りたいと思います。

2. 大学入学共通テスト目標点を意識せよ

最新のマーク式模試には大学入学共通テスト換算得点なるものが載っています。今回のあなたの成績から、今年度の共通テストなら何点取れていたかを推測した点数のことです。この時期の模試の平均点と共通テストの平均点を考えると、まだまだ70～80点ほど上がるのです。模試の難易度の差もありますが、全国の受験生の「秋からの伸び」が大きいからです。そしてこの数値を自分の共通テスト目標点と比べてください。そしてその目標をさらに上回らなければならない人は学習計画を軌道修正してください。上がるところを

上げるのが受験の鉄則です。

特定の教科の底上げをしたい場合、書店で「共通テスト実戦問題集」といって、自社のマーク式模試の過去問を6～8回分合本した書籍を売っています。模試の合本なので解答解説もくわしいし、業者によっては当時の平均点も載っています。場数を踏むにはもってこいだと思います。

3. 新聞・テレビなどで視野を広げよう

勉強時間が増え、ゆとりがないなかですが、ちょっとした時間に新聞を読んだりニュースを見たりしてほしいと思います。今、世の中でどんなことが問題になっているのか、どんな事件が起きているのか、政治はどう、経済はどうと見つめてほしいですし、いろいろなできごとについて「自分なりの意見」をもってほしいです。読者の投書欄では全国の高校生がすごい意見を述べています。現代社会や政治経済で受験しようと考えている人は「新聞が教科書」です。それに小論文対策とまでいかななくても例えば「環境問題」や「脳死・臓器移植」などについて自分はどうかをまとめてみることは大切なことです。

赤本の効用

最後に赤本（大学別過去問）の効用を述べておきたいと思います。

1. 敵を知る

まず赤本で過去問をみよう。A校は小説が多く出題される、B校は文学史が必ず出る、など過去問を見ればその学校の入試問題の傾向がよくわかる。受験をするには、自分を知る（自分の弱点となる単元やこれからやるべき課題などを知る）と同時に相手を知らなければならない。過去問にあたることは相手を知る一番の方法である。どういうジャンルが多く出されているか、記述かマークか、特徴は、など、相手を知ったうえでそれに対応した学習ができれば1ランク上の学校が狙えることも十分ある。またもうひとつヤル気が出ない人は、学習の起爆材として過去問を使うといいであろう。また赤本には大学案内のページも載っているので、大学のプロフィールや学部・学科紹介、卒業後の進路、学生生活、入試状況、入試ガイドなど志望校のイメージをふくらませることもできる。

2. 己を知る

志望校が決まればその学校の「赤本」はぜひ購入して、自分の課題を見つけて、距離を縮めていかなければならない。使い方は、次の2段階である。

- ①まず1年分解いてみて問題傾向をつかむ（マークか記述か、文法重視か長文読解重視か、古代からまんべんなく出ているか近現代中心か、問題数と時間の関係は、などチェックすべき点が多い）とともに、合格最低点まで到達するには、今後何を重点的に頑張ればよいかを考える。
- ②ある程度、基礎固めができた時点で、①で解いた以外の年度分を時間を計って解く。いわゆるオープン模試の感覚である。同じメンバーが入試問題を作っているのであるから、他学部の問題や後期日程などの他日程の問題も傾向はほぼ同じである。したがってそれらも含めてすべて解いてみると、1冊買えば、全ページ使えるわけだ。赤本はある意味では「季節限定品」。売り切れても増刷はされない。ぜひ第2志望分まで買ってほしい。